



協造日報

www.jalc.or.jp

第452号

2011年11月10日

発行/社団法人日本造園建設業協会 (Japan Landscape Contractors Association) 創刊/昭和49年6月1日 〒113-0033 東京都文京区本郷2-17-17 井門本郷ビル2階 TEL03 (5684) 0011 FAX03 (5684) 0012

本号の主な内容

- 2、3面 特集「全国造園フェスティバル開催」
- 3面 東日本大震災からの復興に係る公園緑地整備及び緑地造成等への災害廃棄物活用等の基本的考え方について
国土交通省 都市局 公園緑地・景観課
- 4面 【学会の目・眼・芽】第29回 柳井重人氏【緑滴】 造り守り続ける緑 渡邊裕一

都市緑化月間全国大会を開催

防災公園の整備急務に

10月28日 日比谷公会堂



今年で45回目を迎える都市緑化月間の中心行事である「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会が10月28日に日比谷公会堂で開催され、都市緑化功労者国土交通大臣表彰、緑の都市賞、都市公園コンクールの表彰が行われた。

大会冒頭、主催者を代表して(社)日本公園緑地協会の丸田頼一会長が「都市公園等の緑のオープンスペースの整備は皆様の熱心な努力により浸透してきました。従来に増して幅広いニーズ

がオープンスペースの整備に強く求められています。とりわけ大規模地震や災害時の復旧の救済拠点となる防災公園の整備が急務です。緑豊かな都市づくりに向け一丸となり全国的な国民運動を展開・推進する必要があります。受賞される皆様には、心から喜びと敬意を表します。」と挨拶。

続いて来賓として、前田武志国土交通大臣(加藤利男国土交通省都市局長・代読)が「都市のみどりは、やすらぎやうるおいを与え

るだけでなく、都市の安全・安心を担う重要な役割を果たしています。また、低炭素・循環型時代の構築に大きく寄与することが求められており、みどりを育み守っていくことは持続可能な地域づくりのうえで欠くことができないものです。

全国のみどりに携わる方々が一堂に会し、幅広く都市緑化運動を展開されていくことは誠に意味深く、我が国の豊かなまちづくりに繋がっていくことを大いに期待しております。」と祝辞を述べた。

次いで表彰式では、日造協からは、「都市緑化及び都市公園等整備・保全・美化運動における都市緑化功労者国土交通大臣表彰」で吉原伸氏(62) 吉原種苗(株)

国交省 国営公園等に 事業費379億円 平成24年度予算概算要求

国土交通省は9月30日、平成24年度予算概算要求を発表した。基本方針は東日本大震災からの復興・全国的な防災対策の強化を推進しつつ、持続可能な社会づくり、安全・安心の確保、成長戦略の推進等に重点を置いてメリハリのある要求・要望を行う。

公共事業予算は平成22年度と比べて21兆円、約3割削減されている。平成24年度は「これ以上の削減は困難であり、公共事業予算の要求及び日本再生重点化措置に対する要望を最大限に行う」として4兆4837億円、対前年(同1・02)、「国費30

6億5000万円(同0・93(うち国営公園整備127億6600万円(同0・82))、国営公園維持管理12億2200万円(同1・02))を要求。

また、都市環境整備では、緑地環境整備総合支援事業に事業費1億5600万円(同0・78)、国費5200万円(同0・78)を要求した。

今回のポイントは①復興と安全・安心な都市の実現、②持続可能な低炭素・循環型都市(スマート・シティ)の構築、③都市の国際競争力を支える成長基盤の強化、④地域活性化に向けた質の高い都市の整備・管理の促進の4つを新規または拡充して要求した。

②のスマート・シティの形成の予算要求(19億円)のなかには、都市の公園・

街路樹等から発生する未利用の植物廃材を地産地消型再生可能エネルギーとして活用するため、発電プラントの開発と、災害時における運営計画の策定など国営公園をフィールドに実証実験を行うとしている。

10月21日には第3次補正予算案が発表され、国営公園等の復興に係わる経費として、事業費5000万円、国費5000万円を追加した。また、東日本大震災復興交付金(仮称)の都市公園事業のなかで、津波被害を軽減する機能を有する都市公園津波防災緑地の整備について、市町村における都市公園等の整備水準にかかわらず交付対象として支援することが明記された。

また「第27回都市公園コンクール」で(株)縄縄庭芸が「首里城書院・鎮之間庭園の復元」で国土交通大臣賞を受賞。(社)日本公園緑地協会会長賞を、箱根植木(株)の「(仮称)阿佐谷北公園(A

また「第27回都市公園コンクール」で(株)富士植木の「ギヤザリア ビオガーデン」が受賞した。(コンクール受賞作品については12月号で紹介)

また「第27回都市公園コンクール」で(株)縄縄庭芸が「首里城書院・鎮之間庭園の復元」で国土交通大臣賞を受賞。(社)日本公園緑地協会会長賞を、箱根植木(株)の「(仮称)阿佐谷北公園(A

また「第27回都市公園コンクール」で(株)富士植木の「ギヤザリア ビオガーデン」が受賞した。(コンクール受賞作品については12月号で紹介)

また「第27回都市公園コンクール」で(株)富士植木の「ギヤザリア ビオガーデン」が受賞した。(コンクール受賞作品については12月号で紹介)

また「第27回都市公園コンクール」で(株)富士植木の「ギヤザリア ビオガーデン」が受賞した。(コンクール受賞作品については12月号で紹介)

また「第27回都市公園コンクール」で(株)富士植木の「ギヤザリア ビオガーデン」が受賞した。(コンクール受賞作品については12月号で紹介)

また「第27回都市公園コンクール」で(株)富士植木の「ギヤザリア ビオガーデン」が受賞した。(コンクール受賞作品については12月号で紹介)

「日造協」創立40周年を迎えて

社団法人 日本造園建設業協会 会長 藤巻 司郎



(社)日本造園建設業協会は、この11月4日に創立40周年を迎えることができました。これも国土交通省を始め多くの関係機関の方々のご指導、ご支援をいただいた賜物と感謝を申し上げます。

この節目の年の3月11日に東日本大震災が発生しました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様方に心よりお見舞いを申し上げます。日造協では、被災地、被災会員への支援活動、日本造園学会と連携した復興支援調査などに取組んでまいりました。被災地の日も早い復興を祈念しております。

日造協の歴史を遡ると、昭和46年(1971年)4月に建設業法が改正され「造園工事業」が土木から独立した業種として位置づけられたのを契機に、先人達が一致団結し、造

園建設業の発展を図り、造園技術の向上を通じて都市緑化の推進等に寄与するため、同年11月4日の設立にこぎ着けたことがわかります。それから40年、現在では社会的に広く認知されるまでになりました。これも諸先輩方の多大なご尽力の賜物と感謝を申し上げます。

この10年余り造園建設業を取り巻く環境は、公共事業費の大幅な削減などにより厳しい状況が続いています。一方で、将来の発展を見据えて取り組むべき課題が多々生じております。地球温暖化対策、生物多様性対

により、平成15年(2003年)7月に「造園工事」に屋上等緑化工事が位置づけられ、環境対策面での活動領域が広がる礎が築かれました。これからも常に時代のニーズや課題を的確に捉え、社会の変化に即応できる態勢を整えておく必要があります。

であり、平成15年(2003年)7月に「造園工事」に屋上等緑化工事が位置づけられ、環境対策面での活動領域が広がる礎が築かれました。これからも常に時代のニーズや課題を的確に捉え、社会の変化に即応できる態勢を整えておく必要があります。

また造園建設業を社会に広くアピールする普及啓発活動の展開、国際園芸家協会(AIPH)活動への参加や海外との技術交流を通じて活動領域の拡大を目指すことも重要といえましょう。さらには魅力ある産業として雇用環境の整備に力を注がなければなりません。

来月4月を目途に日造協は一般社団法人へと移行することになります。今後とも造園建設業の発展と社会的使命を果たすべく日造協活動に取組んでまいります。日造協発展のため皆様の一層のご支援、ご協力を心からお願ひ申し上げます。

平成23年 秋の褒章 当協会から 2氏が受章

平成23年秋の褒章が発表され、黄綬褒章を鬼頭慎一氏(63) (株)双葉造園社長(高知県)、和田新也氏(57)、箱根植木(株)社長(東京都)がそれぞれ造園工事業の業務精励の功績で受章の栄に輝いた。



箱根植木(株) 和田新也氏 (株)双葉造園 鬼頭慎一氏

2012 新年 造園人の集い

2012年 1月5日 木曜日 18時より

品川プリンスホテル アネックスタワー5階 プリンスホール

東京都港区高輪4-10-30 ☎03-3440-1111

皆様お誘い合わせの上、ぜひご参加ください

特集

全国造園フェスティバル開催

日造協会員が様々な催事を展開

花と緑で美しい日本を！日造協会員が身近な公園や広場などを会場に全国一斉に花と緑のアピールを行う「第6回全国造園フェスティバル」を実施した。今年は、当協会が創立40周年を迎えることから40周年事業である東日本大震災復興支援活動として(財)日本緑化センター等と共同で行った陸前高田市の「希望の松」の保存のための技術的な支援活動の様子などを紹介するポスターを作成し、展示を行った。NHKをはじめとするマスコミにも取り上げられ、多くの方に会場頂いた。本特集では岩手・岐阜・愛媛・熊本で行われたフェスティバルの各支部の活動を紹介する。なお開催一覧は(<http://www.jaic.or.jp/fest/2011/index.html>)を参照下さい。

岩手県支部
花と緑をアピール
「全国造園フェスティバル」への取り組み

岩手県支部は今年3月11日の大震災、大津波の被害を受け、春の活気あふれる時期も静寂そのもの、これから我々の業界はどうなるものかと思う日々でした。

電気、交通、物資等のライフラインの復旧と何よりも関係各位からの温かいご支援、応援があり、全て中止、延期となっていたイベントも災害復興を願い再開されるようになり、業界にとっても明るいさざがが見え始め一同感謝致しております。

岐阜県支部
支部設立30周年
記念植樹・植栽木を剪定

岐阜県支部の昨年までの「全国造園フェスティバル」のイベント活動は、多くの来場者が見込める国営公園や県立緑化センターは当支部が主体として設立している「NPO法人緑の相談室」が指定管理者として運営を行っているところで、当緑化祭りでは、園内の樹木名を答えるというスタンプラリーを行い、景品(参加賞)として花の種を差し上げました。もちろん業界のPR、樹木、庭園、病害虫、雑草退治等の無料相談も併設しました。

今年度は、岐阜県支部が設立30周年を迎えたため、記念の事業を行うこととして、行事内容を検討しました。今年度は、岐阜県支部が設立30周年を迎えたため、記念の事業を行うこととして、行事内容を検討しました。



人気のスタンプラリー

スタンプラリーは、今年度は難しいとの声もありましたが、会員が樹木の特徴を生かしながら楽しく樹木名を教えることにより、親しみを持っていただけたと思っております。親子、若い二人での参加は微笑ましく、この時覚えた樹木名は絶対忘れないでしょう。展示コーナーでは3年前から緑化材フリーマーケットを行い、好評を得ています。工事で残ったブロック、レンガ、張石材、丸太等アプリーター客も多く、10回以上参加の方もおりました。



県からの感謝状授受

県からの感謝状授受(高さ7m)を植樹しました。剪定作業は、会場のメイン通路であるサンサンデッキの両側及び市の都市計画道路に面した箇所植栽されている高さ5〜8mのクスノキ3本を歩行者や施設者の支障となる枝や枯れ枝などを、1年後の開会式を迎えるに相応しい樹形に剪定を行いました。剪定作業の日には、スポーツを楽しむ方々に会場を訪れた方々にチラシと花の種を配布するところにも高所作業車を使用しての剪定作業の説明を行い、緑化の大切さや緑を守る日造協の活動をPRしました。植樹作業や剪定作業には会員企業が参加協力し、実施しましたが、当初予定していた剪定作業日が台風により1週間繰り延べになるなど作業員の調整の問題もありましたが、県への引き渡しの式典に間に合わせる事ができました。式典は10月5日にヤマモモの植樹場所で行い、小栗支部長の挨拶、目録贈呈の後、湖上副知事より感謝状と感謝のお言葉を頂きました。式典には「ぎふ清流国体」のマスコットキャラクターのミナモちゃんも参加し盛り上げてくれました。式典や剪定活動の様子は地元一般紙や業界紙に掲載され、今回の活動を広く県民に伝えることができ、今回の造園フェスティバルの目的を達成できたと思っております。

愛媛県支部
イベントを行う必要性を再確認
自然あふれる動物園で造園フェスを企画

自身の経験談も含め、皆さんのよい相談相手になれるのではないかと思います。例年はとべ動物園さんにご協力していただき「ゾウの餌やり」や「カバの餌やり」など、皆自然あふれる動物園で行うイベントとしてふさわしいものにしたという思いで、とべ動物園と愛媛県支部とで協同企画したので

中止となってしまいました。自然あふれる動物園で行うイベントとしてふさわしいものにしたという思いで、とべ動物園と愛媛県支部とで協同企画したので

記念植樹は、高木のない武道館入り口の植栽木を行うこととし、樹種は、岐阜県が気候環境として指定している樹種の中からヤマモモを選定し、入口のモニメントとなるよう高さ8mのものを2本植樹しました。また、この入口に面した広場の植栽木で、過去に枯れた2か所についても同



花の種や球根を配布

技術委員長 入口寛紀

事務局 杉山秀志

学会の日・眼・芽

第29回

筆者の勤務地である千葉県松戸市では、放棄された樹林地が散在しています。かつては里山として利用されていた樹林地では、生産的・経済的な価値がなくなり放棄されたために、日常的な手入れがなされなくなりました。人の眼が行き届かなくなったことで、犯罪の危険性が増したり、ゴミの不法投棄が目立つようになりつつあります。

このような樹林地を、行政が支援しながら、市民団体が管理運営していく活動が継続されています。特にここ10年ほどは積極的な展開がみられ、筆者もその活動の一部をサポートしてきました。松戸市の「里山ボランティア入門講座」では、企業を定年退職された方や子育てを終了した主婦の方を中心に毎年約20名の受講生が参加しています。その年の講座修了生は一つの市民団体を結成し、樹林地の管理活動を開始します。活動場所としての樹林地を確保するには、土地所有

者を探し出して、管理の方法や内容などについて合意を図ることが必要となります。この部分には行政が仲介に入ることによって円滑化が図られており、活動協定が締結されるケースも出ています。

市民団体の活動開始から数年を経過すると、樹林地は見違えるようになり美しくなります。市民団体では、自らが行う様々な管理活動の楽しさをメンバー間で共有しています。管理活動から派生する自然観察、クラフト、収穫などがありますが、やがてそれは、子どもたちやその親、近隣住民など地域を巻き込んだものになります。市民団体同士の連携や協力も密に行われ、2012年5月には、市民団体が管理する民有樹林地を、松戸市民に一齐公開するイベントとして「オープンフォレスト巨松戸」も企画されています。

ここでみられる一連の動きには、放棄された樹林地を管理する中で、自らの居場所や生きがいを見出しながら、レ

放棄樹林地を市民の管理で活性化

クリエーションや環境学習、コミュニティ形成、地域・環境貢献等を実現する場として、新しい価値を創造し獲得していくプロセスを見て取れます。

このような可能性を内包しているのは樹林地に限りません。耕作放棄された農地や低・未利用の企業用地等の民有地、事業未着手の土地や残地を含む公有地もあります。立地上も、様々な都市の市街地の内部から縁辺部、郊外部にかけて広くみられます。今後、人口減少が顕在化し、市街地の縮退を余儀なくされる都市が増加すると考えられます。そのなかで、放棄された土地あるいは低未利用の土地を潜在的な資源として、コミュニティにおける共有性や公共性が高い空間・パブリックオープンスペースとして資産化するといった社会的な要請や需要が高まっています。

最近では、このようなプロセスを支援する行政の施策がみられます。例えば、千葉県柏市では「カシニワ制度」を

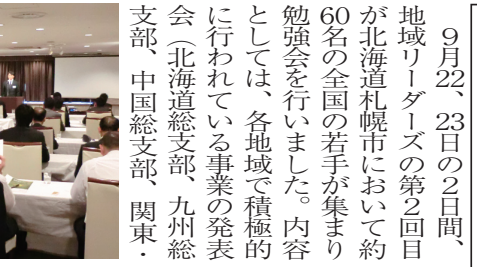
運用しています。この制度では、公有地民有地を問わず、管理に困っている土地を持つ土地所有者と、土地を活動に使用したい市民団体との間を市の担当課が仲介し、交渉が成立すれば協定等により活動内容等に係わる取り決めを行い、活動を開始します。インセンティブになっているのは市民団体や土地所有者への多様な助成や支援です。また、民間においても、建築物の屋上や低・未利用地、耕作放棄地に着目し、それらの所有者と利用者（市民）との間を仲介しながら、貸し農園の運営等を行っている企業やNPO等もあります。

みどり豊かなまちづくりを目指す造園界も、このようなパブリックオープンスペースづくりにこれまで以上に関与しなければならぬのではないかと考えています。それを事業として成立させるために、従来の造園的な技術に加え、新たなシステムづくり、サービス、マネジメン

トに係わる手法と技術が必要になってくるのかもしれない。柳井 重人
千葉大学大学院造園学研究所准教授

地域リーダーズ活動報告

地域リーダーズ 総リーダー 四宮 繁 (株)四宮造園



9月22、23日の2日間、地域リーダーズの第2回目が北海道札幌市において約60名の全国の若手が集まり勉強会を行いました。内容としては、各地域で積極的に行われている事業の発表(北海道総支部、九州総支部、中国総支部、関東

甲信総支部の発表)と「造園建設業界のこれから」地方からの発信と世界での可能性」というテーマで高野文彰IFA日本会長に講演をして頂きその後、懇親会を行いました。次の日には札幌市を代表する公園、モエレ沼公園とパークゴルフが盛んに行われている五天山公園の見学会を行いました。

者候補が相互にコミュニケーションを深め、情報を共有することにより、地域や業界が活性化し、全国各地の活動状況から新たな発想や刺激を受けることで造園事業領域の拡大や事業の充実を図り、業界内だけでなく外部とのネットワークも構築することを目的としております。平成22年6月に準備会が設立し、現在、本部の事業委員会の傘下であり、メンバー構成は各総支部から人員を選定してもらい13名の体制で活動してまいります。年2回の勉強会を今年から開催し、第1回目は東京にて「日造協を知る」というテーマで協

会設立から現在までの活動を運営していければと思います。と、勉強会を前日の総会出席後、翌日の6月24日に行いました。第2回目は各総支部に向いての情報交換と地域の若手との交流を行うということで、今回の企画となりました。現在、各地域の支部でも地域リーダーの会が設立しているところもあり、少しずつではありますが、この会の趣旨も理解されつつあります。今後はメンバーが学んだことを、各地域に反映してもらい、若手のネットワークを確立しながら、協会にも若い人が積極的に参加し活動をしてもらえるように会

委員会等の活動

第19回技能五輪全国大会
中央職業能力開発協会主催
12月16日～19日

「造園競技」はJR東静岡駅前(17日)、18日に行われる。開催に当たり当協会は松本透、卯之原昇両技術副委員長がそれぞれ運営委員、競技委員として参画する。
(www.javada.or.jp)

○事業委員会・事業企画部会 (10月24日)
環境省との自然公園等整

事務局の動き

- 10月
 - 4日 都市緑化キャンペーン(東京)
 - 5日 第1回造園施工管理技術検定委員会運営会議
 - 6日 技術講演会(長野県支部)
 - 20日 住宅管理協会植栽研修会
 - 21日 登録造園基幹技能者講習(福岡) 21(金)建設系CPD専門部会
 - 24日 事業委員会(事業企画部会)
 - 26日 業種区分に関する国土交通省ヒアリング花育委員会
 - 27日 基幹技能者制度推進協議会分科会(合同会議)
 - 28日 財政・運営検討チーム会議

日造協賛助会員の紹介 36 ミラクルソル協会



当協会では、ガラス廃材を再資源化した多目的環境材料「ミラクルソル」を用いた土木技術を開発しています。ミラクルソルは多孔質で、吸水性や比重を調整することが可能な材料で、用途毎に使い分けられています。緑化で用いる材料は、吸水性に優れた材料(吸水率100%以上)で、土に混合(10%体積比)するこ

- 11月
 - 1日 北陸総支部と北陸地方整備局企画部との意見交換会
 - 7日 全国大会
 - 10日 登録造園基幹技能者講習 11(金)近畿総支部・支部交流会
 - 11日 登録造園基幹技能者講習 11(金)近畿総支部・支部交流会
 - 17日 植栽基盤診断士認定試験
 - 22日 総務委員会(広報部会)花育委員会
 - 24日 植栽基盤診断士認定試験(実技試験)大阪 26(土)

造り守り続ける緑

仙台平野を北から南に、果てしなく続くように見えた緑の壁が、東日本大震災の津波により、粗雑に打たれた乱杭のようなシルエツトとなっています。クロマツの海岸林はまさに「白砂青松」日本の典型的な海岸景観を形成して、その緑の壁は周りに広がる実り豊かな耕地、それにより支えられてきた人々の生活を、海からもたらされる様々な脅威に対処する守りの壁としても機能してきています。無残になぎ倒された海岸林の空虚な空間からは長く続く海岸線と大きく広がる水平線が見え、海がこんなに近くにあることに驚かさず、海を生活の場とする人々、海の脅威を免れながら生活する人々の丁度中間点に、海岸林が存在している



ことを再認識させられた景観でもありました。震災後時間の経過と共に、海岸林による強度の維持による防災とは違った、生態系的視点も重要であり、現況の荒涼とした海岸に郷土由来の苗木を植栽し樹木の生命力をたのみ、充実した緑の壁に成長させ、新たな防災海岸林として再整備・維持することが必須であり、環境対策上も必要であると思われま

も相当高額に見積る必要があると思われま

この震災から得られたことは、限りなく成長する緑の力を信じ、樹木を育て守るといふ行動を継続させ、豊かな森林「緑」を創出していくことが、次世代に渡り得る確実な緑の防災資産であることだと思えたことです。

渡邊 裕一 (株)宮城県林業開発センター